

自己点検評価報告

2015年

京都大学人文科学研究所



I 研究施設の概要

目的

多民族・多文化間の調和ある共生に資する知見を人文科学の分野から発信する

組織

5部門(文化研究創生、文化生成、文化連関、文化表象、文化構成)

2附属施設(東アジア人文情報学、現代中国)

みやこの学術資源研究・活用プロジェクト

研究体制

多様な関心に基づく個人研究

高頻度で開催されるハイレベルの共同研究

公募型16件、公募型以外12件(H26年度)

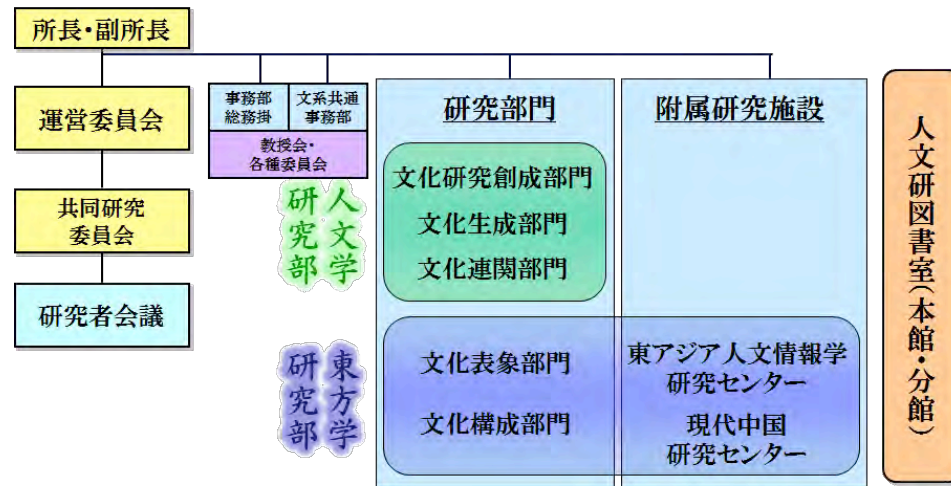
設備

共同研究室、図書閲覧室

資料

図書 約60万冊、雑誌 約9200種

他に考古美術、地理民俗、文革期刊行物



共同研究施設



図書室



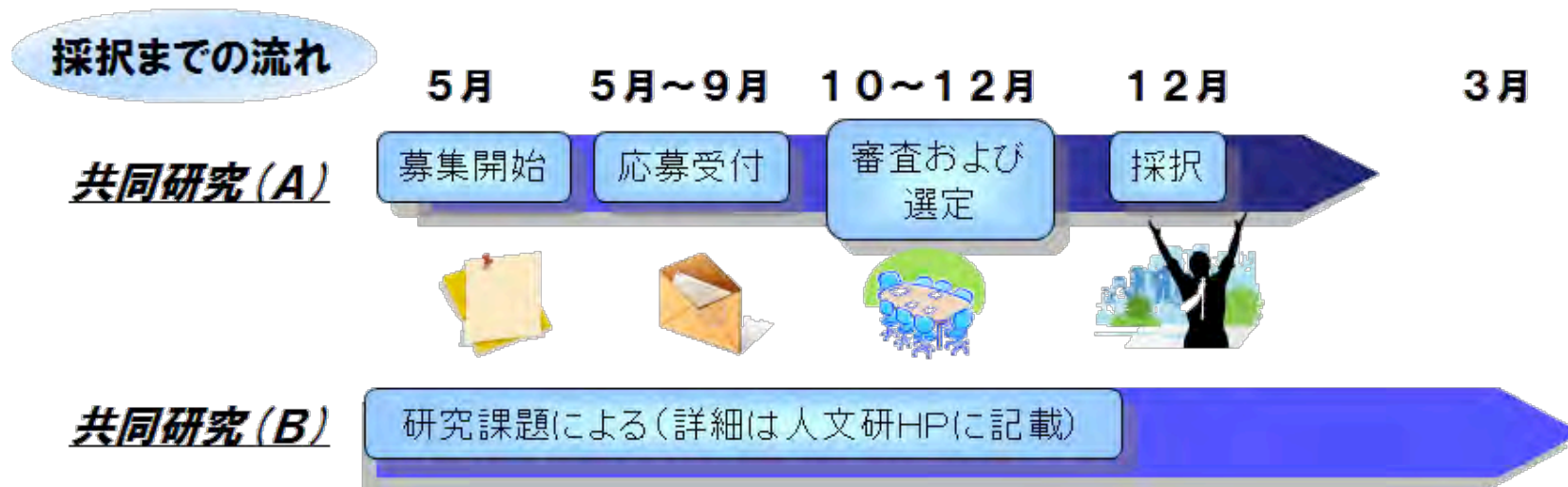
Ⅱ 活動状況

1. 情報発信の取組状況

(1) 共同研究の募集

- ① 課題公募型共同研究(A班): 課題自体と班員を募集
- ② 参加者募集型共同研究(B班): 課題は所内で選考し、班員を募集

随時ウェブサイトの情報を更新
研究者コミュニティを通じた広報活動



(2) 共同利用の推進

人文研所蔵資料のデジタル化と公開

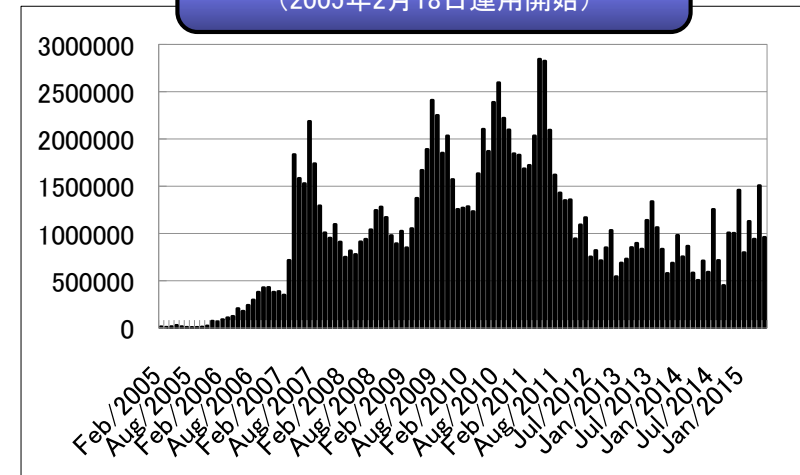
データベース利用状況

データベース名	アクセス数
京都大学人文科学研究所所蔵石刻拓本資料 (拓本文字データベース)	9,896,547
全国漢籍データベース	3,181,467
東洋学文献類目	7,908,776
京都大学人文科学研究所所蔵甲骨文字	455,088
CHISE 文字オントロジー	2,435,304
東方学デジタル図書館	1,072,231
所蔵中国雑誌	151,130
地図	189,734
戦後日本における朝鮮史文献目録	142,187
戦前日本在住朝鮮人関係新聞記事検索	70,106
朝鮮通信使関係資料目録	68,463
南インド寺院管理判決文データベース	10
ミクロ人類学文献・大学院文献データベース	99
性文化研究基本文献・資料データベース	266
〈近代日本の南方関与〉に関する 戦後日本刊行文献目録	6,359

年間1000万件のアクセス

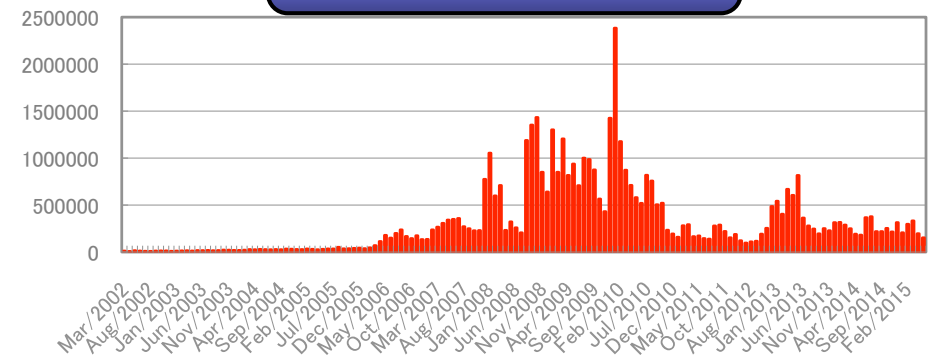
拓本文字データベース

(2005年2月18日運用開始)



全国漢籍データベース

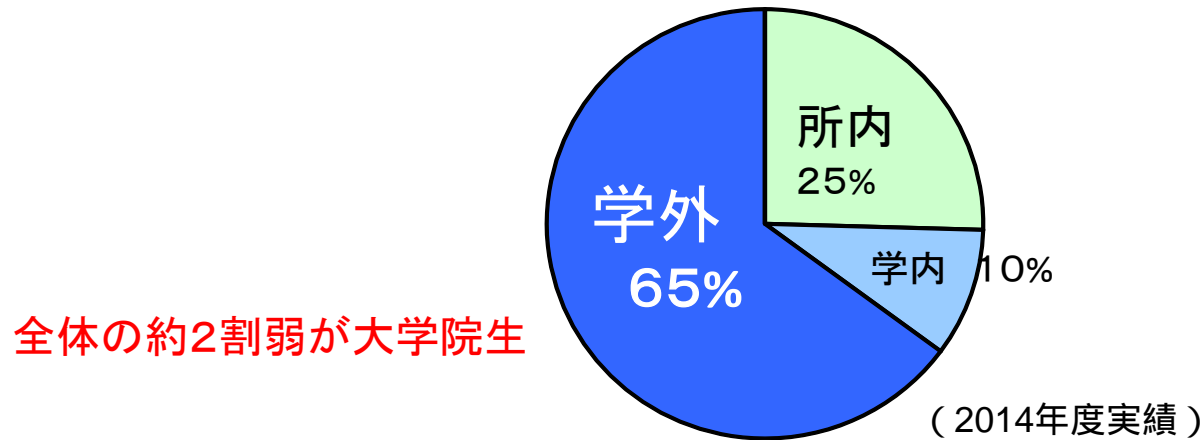
(2002年3月6日運用開始)



2. 共同研究を通じた人材育成

(1) 大学院生、ポスドク研究者への参加呼びかけ

共同研究班員の構成



(2) 日本学術振興会特別研究員や海外の若手研究者の積極的受入れ

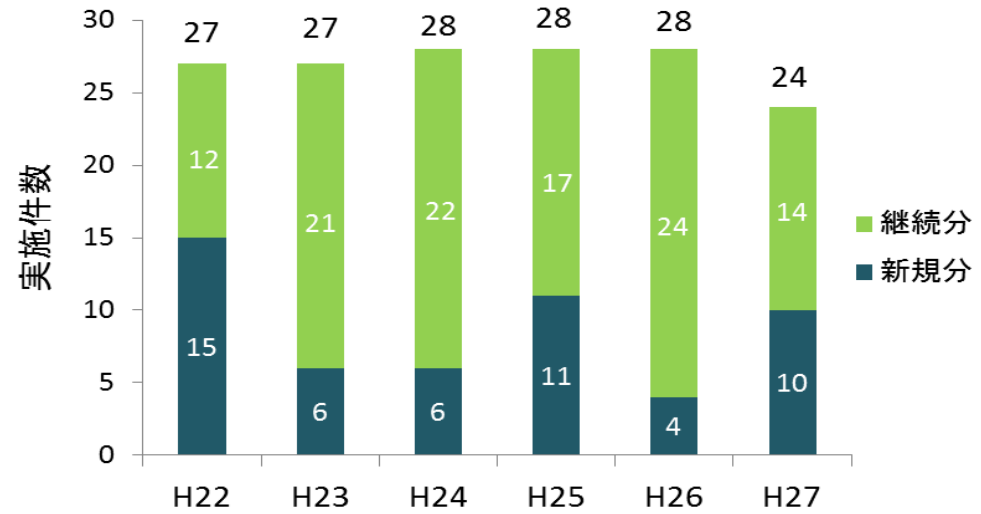
学振特別研究員	研修員	研究生	研究員	RA	オフィス・アシスタント	研究支援推進員	合計
21	2	6	18	1	7	5	60

(2015年3月現在)

3. 共同研究の件数



共同利用・共同研究課題の実施状況



4. 共同研究でしか成し得ない研究成果(H26年度)



『現代の起点 第一次世界大戦』(全4巻)岩波書店
 第一次世界大戦の歴史的重要性に関するすぐれた論考

『漢簡語彙——中国古代木簡辞典』

『漢簡語彙考証』 岩波書店

東アジア古代史研究に不可欠の辞典と考証



5. 基幹的研究班体制の整備

① 人文学の基本に関わる大きな課題を設定して、共同研究の新たな可能性を切り開く

→ 総合性に根ざした挑戦的な試み

② 拠点としての活動を見えやすくする

→ 国際的発信力の強化

1) 「現代／世界とは何か？——人文学の視点から」

「現代の起点」たる第一次世界大戦によって惹起された諸問題を、より大きな現代史/20世紀史の文脈で検討する。

2) 「環世界の人文学——生きもの・なりわい・わざ」

ドイツの生物学者ヤーコブ・フォン・ユクスキュルは、生きものの営みと、その営みがなされる世界との相互関係を「環世界Umwelt」と呼んだ。本研究班

でも、こうした先行研究を引き継ぎつつ、しかし「環世界」を単なる抽象概念として扱うのではなく、生きもののあり方、生きもの相互の「あいだ」や「空気」、さらにはそれらの関係のなかで生まれる技術や言説など、具体的な事象に寄り添いながら考えることを主眼に据えている。



6. 共同研究への参加状況 (H26年度延べ人数)



区分	延べ人数			
京都大学	1,245人	うち、 外国人 445人	うち、 若手研究者 (35歳以下) 574人	うち、 大学院生 618人
国立大学	394人			
公立大学	157人			
私立大学	861人			
大学共同利用機関法人	18人			
独立行政法人等	36人			
民間機関	46人			
外国機関	195人			
その他	179人			
合計	3,131人			

7. 共同研究班の開催状況と班員構成

- 毎週または隔週で研究会を開催
- 班員の半分以上が学外のメンバーで構成

→ すでに開かれた共同研究拠点として活動

研究会の
開催状況

隔週	14班
毎週	4班
その他	10班
計	28班

班員の構成

班員の所属	人数
所内	129
学内	49
学外	329
(大学院生)	(98)
合計	507

学外所属の内訳	人数
国立	80
公立	23
私立	147
他	79

(平成26年度実績)

8. 外国人研究者等の受入人数（H26年度）

招へい研究員	招へい 外国人学者	外国人 共同研究者	研修員 (私学研修員含)	研究生
6	11	8	2	6

受入研究員等出身国

中国、韓国、台湾、香港、ウクライナ、ルーマニア、カナダ など

9. 学術交流協定締結状況（H26年度締結分）

- ・台湾：中央研究院歴史言語研究所
- ・台湾：国家図書館
- ・台湾：国立台湾大学文学院日本研究中心
- ・韓国：高麗大学校民族文化研究院

10. 科学研究費補助金取得状況（H26年度）

	基盤研究S		基盤研究A		基盤研究B		基盤研究C		挑戦的 萌芽研究		若手研究B	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
件数		1		4	2	7	9	3		1	5	5
金額 (千円)		33,000		27,500	6,900	25,900	8,700	2,700		700	3,000	4,000

	研究活動 スタート支援		研究成果促進経費 (学術図書)		特別研究員 奨励費		外国人特別研究員 奨励費		合 計		
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	計
件数	1		1		5	15	1		24	36	60
金額 (千円)	1,100		2,000		5,200	14,100	200		27,100	107,900	135,000

11. シンポジウム等の実施状況(H26年度)

(1) 研究者対象

- ①シンポジウム・講演会 18件
- ②セミナー・ワークショップ 353件
- ③その他 2件

合計373件(参加人数は7658人)

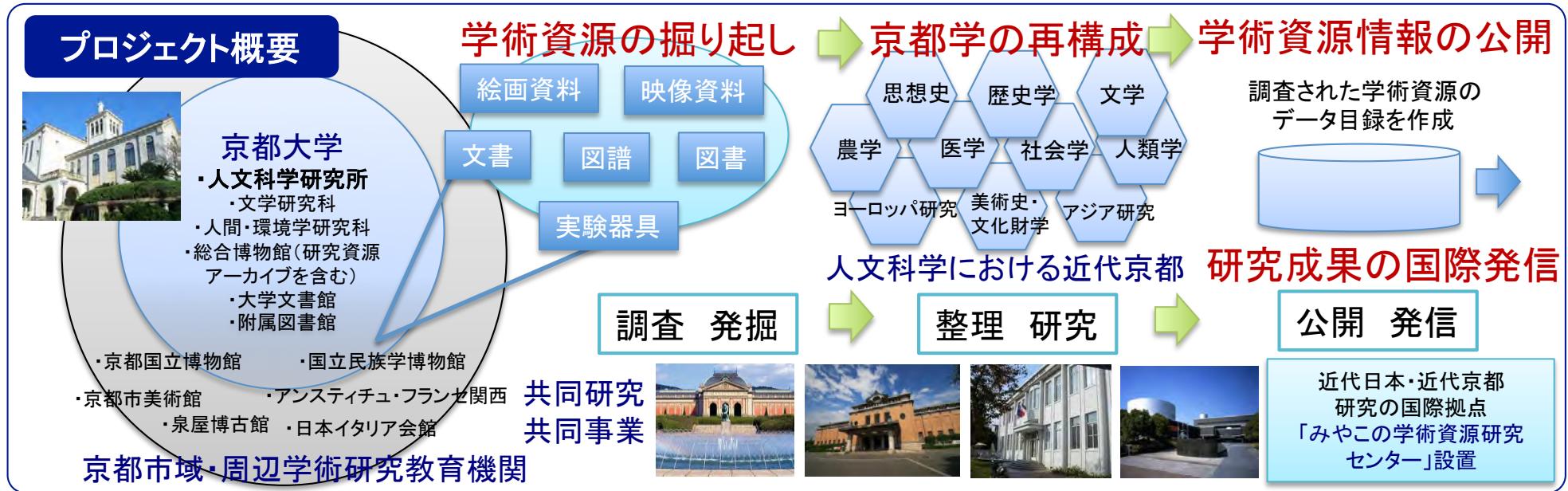
(2) 一般対象の公開講座

- ①シンポジウム・講演会 6件
- ②セミナー・ワークショップ 7件

合計13件(参加人数は2744人)



みやこの学術資源研究・活用プロジェクト



目的・必要性・重要性

目的

学術資源に基づく、日本・京都の近代学知の学問的再構成と国際発信

京都のさまざまな学術研究教育機関に所蔵されている学術資源の調査・整理・研究に基づいて、主として明治期以降に西洋から我が国に移入された近代的学知が、教育や翻訳をつうじて受容され、近代以前の伝統的・土着的な知や文化と融合しながら、現代に向けて発展してきた過程を、江戸や東京とは異質な文化的・知的背景をもつ京都や京都大学の独自性を踏まえ、再構成する。

必要性・重要性

- ・欧米の大学では学内の博物館・美術館・研究所で学術資源の調査研究が積極的に取り組まれ、東京大学でも文化資源学専攻や総合博物館で学術資源の網羅的研究体制が整う。
→平安京以来の学術資源に富む京都に立地するにも関わらず、本学では学術資源の保存・総合的調査研究体制が充分とは言えず、学内専門部局(総合博物館(研究資源アーカイブを含む)、大学文書館等)共同で早急に改善する必要がある。
- ・本研究の学際性を活かし、学術資源の整理・解析に領域横断的に取り組むことで、京都や京都大学に眠っていた学術資源を甦らせることは、我が国における近代的学知の構成課程を明らかにする上で極めて重要である。
- ・学術資源を発展的に継承し、後世に向けて伝達してゆく方法を検討することは、足元の京都大学が近代的学術研究の営為の「記憶喪失」に陥らないためにも不可欠である。

「みやこの学術資源研究センター」設置

- ① 学内の学術情報ネットワークの形成
- ② 京都市内外の学術資源の調査・整理・研究
- ③ 国際的学術関係機関との関係強化および研究成果・情報の国際的発信
- ④ 京都大学のCenter of Communityの機能強化

近代日本・近代京都研究の国際的研究拠点へ